

建築設備技術遺産に3件

JABMEE 6月23日に認定式



新晃SRD型エアディフューザ

建築設備技術者協会(JABMEE、野部達夫会長)は、建築設備の「技術」「役割」「文化」を多くの人たちに知ってもらうことを目的に選定している「建築設備技術遺産」の17年度認定遺産を決めた。認定委員会(委員長・鎌田元康東大名誉教授)が「新晃SRD型エアディフューザ」

(新晃工業)など3件を認定した。認定式は、6月23日に東京都港区の明治記念館で開く総会の終了後に行



ホーム分電函

われる。

認定されたのは、▽新晃SRD型エアディフューザ
▽ホーム分電函(BBK-3)
▽TOTOMIミュージアム所蔵の光電センサー内蔵



TOTOMIミュージアム所蔵の光電センサー内蔵自動水栓

自動水栓の3件。

建築設備技術遺産は、空調・衛生・電気・搬送の4領域に関する技術と技術者の歴史的な足跡を示す「事物」「資料」が認定対象で、今回が6回目の認定。

今回認定された3件の管理者は次の通り。
▽新晃SRD型エアディフューザ||新晃工業
▽ホーム分電函(BBK-3)||河村電器産業
▽TOTOMIミュージアム所蔵の光電センサー内蔵自動水栓||TOTOMIミュージアム。

JABMEE 17年度の建築設備技術遺産 3領域・3件を認定

建築設備技術者協会(JABMEE、野部達夫会長)は2017年度の建築設備技術遺産として新晃工業のSRD型エアディフューザなど3件を認定した。6月23日の通常総会後に認定証授与式を行う。

件を認定した。6回目の今回は▽空調領域▽電気領域▽衛生領域の3領域で1件ずつ認定し、技術遺産は合計32件となった。

建築設備技術遺産認定委員長の鎌田元康(東京大学名誉教授)は「文献やカタログが残っている設備を審議し認定する。『歴史的設備』でも建物の解体時に知らずに処分されてしまうことがある。使

われていない設備でも大切に残すことができたい」と話す。

今回の認定技術遺産は次の3件(①管理者②所有者③講評)。

▽認定第28号・新晃SRD型エアディフューザ

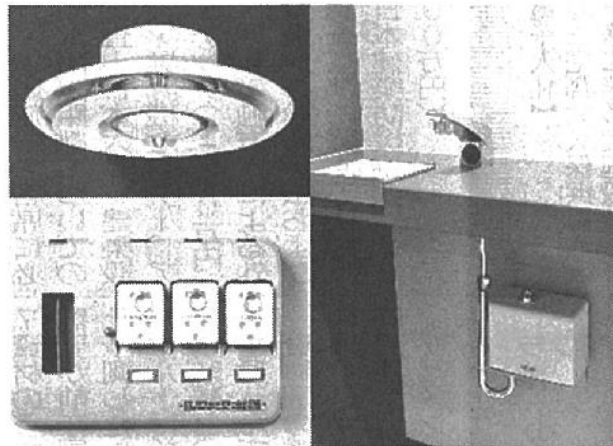
①新晃工業②同③1962年竣工の住友ビル本館に約7000個設置された吹出・吸込兼用の風量調整機構付エアディフューザ。オフィスのモジ

ユール化、空調環境制御果たした。SDRはSupply Return Damp

erの頭文字。

▽認定第30号・TOTOミュージアム所蔵の光電センサー内蔵自動水栓

①TOTOミュージアム②同③医科大学などで普及していたセンサー付き水栓に、その後開発された小型の光電センサーを組み込んだ。節水性と衛生性が向上した他、清掃が楽であるなどの利点もあって広く用いられるようになり、自動水栓の開発と普及、技術の進歩に寄与した。



新晃SRD型エアディフューザ(左上)、ホーム分電函(左下)、自動水栓全体像(右)

果たした。SDRはSupply Return Damp

erの頭文字。

▽認定第29号・ホーム分電函

①河村電器産業②同③住宅引き込み口の過電流保護の力ツトアウトスイッチを収納し、感電や火災防止などの電気安全に大